

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	がん治療施設における妊孕性温存がん治療 がん・生殖医療連携に関する実態調査
	研究目的	最近若年の方のがんは、増加しています。一部のがん治療では、がんは治っても、治療の影響で卵巣の機能が低下して閉経が早まったり、妊娠することができなくなることもあります。妊孕性温存がん治療は、妊孕能（妊娠できる能力）を残しながらがんを治す治療ですが、全国の病院で現在、妊孕性温存がん治療がどのように行われ、その後患者さんがどのような状態でいらっしゃるのかは分かっていません。そこで本研究では、複数のがん治療施設へアンケートを取ることで、妊孕性温存がん治療の現状を把握し、今後の治療に役立てます。当院もこの研究に協力し、2009年1月から2013年12月までの間に、15-39歳の方で卵巣腫瘍（性索間質性腫瘍または胚細胞性腫瘍）と診断され、妊孕性温存を目的とした治療を受けた患者さんの臨床情報を匿名化し、手術前の情報、治療内容、治療後の経過、患者番号などの情報を提供します。
	研究期間	西暦 2018年3月8日～西暦 2020年3月31日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理についての責任者	研究責任者	上原 萌美
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	婦人科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	聖マリアンナ医科大学産婦人科学講座 鈴木直